

選挙に関心を持ってきています

今、社会では政治のことについて学習を進めています。歴史とちがって余り興味の持てる内容ではありませんが、テレビのニュースで、選挙をめぐって国会議員が逮捕されるといふ報道を子ども達は知っています。変なことですが、正しい選挙とは何かを学習する良い機会になっています。

「お金をもらっておきながら、知らんぷりをしていた大人がいる」「頭を丸めたり、泣いたりする大人をテレビで見た」など、なぜそんなことを知っているのか？と感心するくらいよく知っていて、いろんな情報を得ていることが分かります。「これは時代劇に出てくる饅頭の下に小判を忍ばせて賄賂を贈る商人と同じやね」とか冗談を言いながら、選挙について話しています。

今、子どもの関心が政治に向いているのは、嬉しいことです。世の中の動きに興味を示してくれているので、素朴な疑問にしっかり応えて行きたいと思います。大人は何を元に投票しているのかなど、選挙についてご家庭でも、話題にして頂けたら有り難いです。

連載「三六年間の教育を振り返る⑥」

学校週五日制

五月の連休中に倉庫の整理をしていたら、一九八九年の六年生の時間割が出てきました。このころは、まだ土曜日に学校があつて、週二九時間の時間割となっています。これは、今の六年生の授業時数と同じです。このころは、総合とか英語もありませんでした。また、今のように学期によって音楽、図工、体育が一時間だったり二時間だったり、ややこしいこともなくて、余裕で教科をしっかり教えることができてました。その六日でやっていた授業を今は五日でやっているのですから、学校に余裕のないのは当たり前です。

その後、一九九二年に毎月第二十曜日が休みになり、一九九五年に第二十曜日と第四土曜日も休みとなりました。そして、二〇〇二年から完全に週五日制が始まり、土日が休みとなったのです。

さて、「ゆとり教育」も日本人の働き方改革（具体的には週休二日制）を目指す中での教育改革でした。当時、国際共通語となった「カロース」に象徴されるように、過労死自殺が世界からも注目されるようになり、国連からも労働時間の是正勧告を受けたのでした。（しかし現在もデンソー社員の過労死自殺に見られるように当時と状況は変わっていないのだと思います。）日本人の働き方を変えるのが喫緊の課

題だったのです。労働者の働き方を変えていくことを目指すのですが、経済力を落とさたくないで、企業より先に目をつけたのが、公務員の週休二日制でした。はじめに役所、次に学校へと移行されました。学校では、月一回の土曜日休日、隔週での土曜休みを経て完全学校五日制となりました。それから、企業にも週休二日制が浸透していったのです。

また、当時の学校現場では、「学級崩壊」「子どもの荒れ」が報道を通して広く知れ渡ることとなり、子どもの生きづらさが表面化した時期でもありました。小学一年生のクラスが崩壊しているという、当時では考えられないことが起こり、「ゆとり教育」が求められたのでした。

そのやり方には、問題があつたにせよ、必要に迫られた「ゆとり教育」であつたことには間違いありません。

		週当たりの「標準授業時数」						
	改訂実施	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中学
週6日制	1992年	25	26	28	29	29	29	30
週5日制	2002年	23	24	26	27	27	27	28
	2011年	25	26	27	28	28	28	28
	2020年	25	26	28	29	29	29	29

現在、週6日制の時の授業時数を5日制でやっています。小学校4年生以上は、中学生と同じ授業時間数になっています。

—子どもの日記から—

ワールドカップを思い出す

第五回目—満君の日記から

今から18年前の2002年に、日韓共催のワールドカップがありました。当時はワールドカップがあるということで、BSアンテナをつける家が急増しました。すぐにNHKの人がやって来るその速さにも驚かされました。学校でもワールドカップということで、いろんなことが起こりました。

□「BSがついた」 六年 満

この前の土曜日、ぼくが、「お母さん、ワールドカップ見たいからBSつけて。」

と言うと、お母さんが、

「お父さんに話しく。」

と言ったので、

「うまいこと言っといてや。」

と言いました。

そして、晩になって、お父さんが帰ってきたので、そのことを言っど、

「自分でつける。」

と言われました。でも、お母さんは、電気屋

に勤めているから、少し安くしてくれるかも

しれへんとか言いながら、お父さんと話し合

いをしていました。そして、お父さんが、

「考えとく。」

と言ったので、BSがつく可能性が出てきました。

それから次の日。家に帰ると電気の工事をしていた。ぼくは、（お母さんがお父さんを説得してくれたんや。）と思いました。

その日は、一日中BSでワールドカップを見ていました。夜の十二時三〇分ぐらいまで見ていたので、知らんまに寝ていました。これから、寝不足になるまでワールドカップを見るかも知れないので体が持つか心配です。

1998.6.10

□「BSのおじさん」 満

そのおじさんは、二週間ぐらい前からたん車に乗って、町内をぐるぐる回っていました。そのおじさんが、

「ピンポン。」

とベルを鳴らして、家に来ました。

お母さんが出ていくと、ニコニコした顔で、

「BSの放送料お願いします。」

と言いました。お母さんは、（もっきたん。）とおどろいていました。お母さんは、おじさんに、

「もうかっているやろ。」

と聞きました。おじさんは、

「おかげさまで、ワールドカップでBSをつける人がたくさんいるんで。」

と、とってもニコニコして言っていました。

おじさんに聞くお母さんも変だけど、答えているおじさんもおもしろくて、ぼくとお兄ちゃん

は家の中で笑っていました。

1998.6.29

学校ではワールドカップ給食というものが献立にありました。ベルギーということでワッフルが出て、ロシアはピロシキとトマトの赤いスープ。チュニジアのメニユールはスープの中に黄色い粉のようなものを入れて飲みました。「トマトはきらいだけど、スープを飲んだらロシアの気分になりました。」ほんま？というような日記を子どもは書いてきていました。

また、ワールドカップの閉会式では、たかさんの折り鶴が飛ばされました。その鶴は小中学生が折ったものでした。各校に枚数が割り当てられていて、私が勤めていた学校にも200羽の依頼が来ました。「決まった数しか配られないので失敗しないように」「50羽ずつ4つの封筒に入れておくように」という、上から目線の細かい注文に気分を害したものです。どんな色紙で折るのだろうと見たところ、FIFA WORLD CUPとロゴが入ったティッシュを厚くしたような紙で、とても折りにくかったのを思い出します。

「ワールドカップなんてどうでもいいこと。よっぽど阪神—巨人戦の方がおもしろい」と言っていた校長。鶴を折る依頼が学校に来ると、態度を一変させ、「これは国民的行事ですから・・・。」と言っていたのを思い出します。（結構笑えました。）一方、ある中学校では、鶴の依頼を生徒会が受け入れなかったようです。その中学校では、空き時間の先生が職員室で鶴をせっせと折っていたと聞きました。